



【わたしを愛してますか。】

聖書本文:ヨハネの福音書21章1ー17節・暗唱聖句: 箴言8章17節

説教: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイスチャーチの教会の信仰の家族のみなさん!今日は十字架につけられ死んで、三日目によみがえられたイエスの復活を記念する復活の主日です。よみがえられた主イエスキリストが弟子たちに来られ、彼らの中に立って“平安があなたがたにあるように。”(ヨハネ20章19節)と宣布して下さったように今日集っているみなさんのから人生の上に、ご家庭の上に、職場の上に主イエスキリストの平安が豊かに溢れますように祈ります。

キリスト教教会では二つ大切な日がありますが、それがイエスキリストがお生まれになったクリスマスとイエスキリストがよみがえられたこの復活の日を等しく大切に記念しています。イエス様の誕生と十字架と復活の出来事はイエス様が眞の神様であり、人類の救い主であることを証しする確かなことだからです。しかし、今日になってきてはこの世と教会が商売にあわせられてクリスマスをもっと盛大にやっていますが、実際に初代教会の時代にはクリスマスよりか、イエス様の復活のメッセージが毎週、語られ、大胆にイエスの復活の知らせを伝えるのに力を入れるほど、イエス様の復活は教会の核心となっていました。

ですから私たちも、今日、この復活の日を特別な行事ぐらいに考えてはけつてならないと思います。

実際に私たちは毎週日曜日に、イエス様の復活を記念し、喜んでいます。ユダヤの安息日は土曜日ですが、イエス様が安息の翌日復活されましたので、初代教会の聖徒たちはイエス様の復活を記念して日曜日に集まって礼拝を捧げ始めたのがこんにち教会の日曜礼拝のもとなのです。

数年までアメルカの有名なハリウッドの俳優でありながら監督として作られた映画＜パッションオブクリスト＞という映画が世界的にイッシュになっていることをみなさんも見たり、聞いたことがあると思います。聖書をもとにしてイエス様が十字架にかかるまで最後の12時間をえがいた映画ですね。この映画を見た多くの人々がこの映画を見て衝撃とショックを受けました。なぜなら、自分が考えて来たイエス様の受難と十字架を何回も聞いて、信じて、告白してきましたが、それほど、イエス様の受難と十字架の苦しみが残酷だったのか今までの想像をこえたという告白がたいたいのみんなからの感想でした。

<1. 恐ろしい主の十字架の上で失ってしまった信仰と望み>

当時イエスキリストを追い求めた弟子たちもきっと、このようなイエス様の残酷な十字架の死はものすごく恐ろしくてショックだったでしょう。自分たちにとってイスラエルを救う王になる、みんなの希望に答えられる存在がイエス様だと信じていたのに、彼らはイエス様が十字架であんなに残酷に、まるで血のかたまりのように死なれる姿を見て、彼らの心にあった信仰は弱くなってしまい、失っていました。しかし、彼らはひょっとすると最後になにか、奇跡でも起きることを期待しましたが、なんの奇跡も起こらず、イエス様は人々のあざけりと侮辱を受けながら、悲惨な死を迎えるました。イエスキリストを追い求めた人たちはイエス様の遺体のみならず、彼らの信仰と希望までもアリマテヤセフの買ったお墓の中に深く葬(ほうむ)ってみんな逃げてしまいました。

彼らはイエス様に向かって“主はキリストであり、生きておられる神の子です。”と信仰の告白をした人々でした。“永遠の命がイエス様にあるから自分たちは決して主を離れない”と告白した者たちでした。しかし、あんまりにも恐ろしいイエス様の十字架の死の前で弟子たちの信仰は消えてしまいました。イエス様の遺体とともに彼らの信仰も同じく遺体に、死んだ状態になってしまったのです。信仰の確信が消えてしまったイエス様の弟子たちはヨハネの福音書20章19節を見ると、「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあった。」と書かれています。信仰が弱くなると、人や自分の目の前の問題に巻き込まれてそれに恐れてしまうことをここで弟子たちの姿を通して知ることができます。

そして、私たちはイエス様の弟子だったトマスの言葉を通して見ても彼らの信仰の状態を把握することができるでしょう。

イエス様がよみがえられたお知らせをほかの弟子たちから聞いたトマスは何と言いましたか。“私は、その手に釘(くぎ)の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れて見なければ、決して信じません。”と言いました。

どういう意味ですか。イエスキリストの復活が私には信じられないということです。信仰が敗(やぶ)れてしまいました。実際その時、イエス

様の弟子の一人であったトマスは疑ったのではなく、彼が信仰失ってしまったのです。

ある弟子たちは希望もなくしてしまいました。ルカの福音書24章見ると、エマオという村に行く主の二人の弟子がいました。この二人はイエス様の死を悲しみながら、歩いていました。その時、復活されたイエス様は暗い顔つきになって歩いている彼らと一緒に歩きながら“あなた方はいったいどういうことであんなに悲しそうな顔をしているのか。”と問います。

すると、二人の弟子たちはルカの福音書24章21節に、“私たちは、この方こそイスラエルをあがなってくださるはずだと、望みをかけていました。”と答えます。つまり、彼らの希望は“望んでいる”ことではなく、“望みをかけていました”と。つまり、主に対する持っていた希望と望みがすでにすぎさった過去のことになってしまったという意味でした。前まではイエスキリストこそイスラエルの希望だったと思ったのに、今は違うということです。信仰もなくなり、希望も失ってしまった弟子たちの姿を見ることができます。それで弟子たちはイエス様が十字架にかけられた後、みんなそれぞれのイエス様を信じ、従う前の以前の自分の生活にもどってしまいました。

もうこれ以上は何も期待する事がない、信仰もなくなり、希望も失ってすべてがもう終わり、結局イエスキリストのすべてのお働きも失敗されたように見えました。

<2. 消えなかつたイエスキリストへの愛>

しかし、みなさん！まだ消えなかつたことがありました。それは何でしょうか。それは、“イエスキリストへの愛”でした。彼らはまだイエス様を愛していました。彼らはイエス様からの愛を覚えながら生きる人たちでした。その中の代表的な人は今日のヨハネの福音書20章の前半を読んで見ると、マグダラの女と呼ばれるマリヤが出てきます。この女がどういう人か私たちは全部は分かりませが、ルカの福音書8章2節を読んで見ると、以前 七つの悪霊に捕らわれていた女だったので、どれほど、心も、体もいろいろな男たちに汚され、ふみにじられたかわいそうな暗闇の人生でした。しかし、イエスキリストと出会い、イエスキリストを通して七つの悪霊が追い出され、過去のすべての罪が赦される恵みと主の愛を経験していた女だと記されています。そしてらい病人シモンの家出高価な香油(こうゆ)のはいった石膏(せっこう)のつぼをもって来てイエス様の頭に香油を注いだ女もマグダラマリアでした。資格がまったくない者なのにもかかわらず頂いた主の恵みと愛、赦しがあんまりにも大きくて感激し、感謝して自分の持っている物を惜しみなく主のために捧げたのです。

イエス様は多くのゆるされた者がより喜び、イエス様をもっと愛していると言われながら、この女の行為を認めてくださいました。このマリヤの話は聖書にたくさんは出でていませんが、マグダラマリヤはイエス様が十字架にかかるて死にかけている時にもイエス様に対する愛は続けられました。イエス様が人々に捕らえられていく時に弟子たちはイエス様を見捨てて、逃げてしまったのですが、主の愛を覚えているこの女はイエスの姿を最後まで見届けました。ずっとイエス様だけ見上げたのです。

この女はイエス様を愛したゆえに、マグダラマリヤを含め主を愛した者たちは十字架のイエス様からも離れず、くるしげのうめき声の小さな祈りさえも全部聞き入れようしました。そして、イエス様の死なれた後、安息日には当時の律法に従って遺体のおいてあるお墓には行けなかったので、翌日明け方早く、マグダラマリヤはイエス様のお墓に着きました。しかし、石は墓からわきにとりのけてあって、イエス様の御体はありませんでした。その時も、彼女は何も恐れずイエス様のお墓からも離れず泣いていました。そしてなきながら、体をかがめて墓の中をもう一度のぞき込んでいました。途方(とほう)にくれているこのマグダラマリヤに天使たちが現れて伝えます。“イエスキリストはもうここにはおられませんよ。イエスキリストが語られた通りよみがえられたのです。”マリヤはおお喜んで弟子たちに行ってお墓のことについて伝えました。ただ主に対する愛のためでした。

ついによみがえられた主イエス様はマグダラマリヤにご自身を表して下さっています。

本文のヨハネの福音書20章にもどって、13節イエス様は現われ、“なぜ泣いているのか”、15節に“だれをさがしているのですか。”マリヤは声をかけているその人が園の管理人だと思って15節に「あなたが、の方を運んだのしたら、どこにおいたのか言ってください。そうすれば私が引き取ります。」といいます。マリヤの主に対する愛の心は始終(じゅう)かわりませんでした。この女は今恐れものみならず、不可能も乗り越えています。なぜなら、愛するみなさん、考えてみてください。

か弱い女が男の遺体をどこにおいたか教えてくれれば、行って引き取るといっているのです。もしもイエス様の遺体があったとしても彼女一人でも力で運ぶのが出来ないです。イエスキリストをお墓に入れる時、当時イスラエル葬儀の文化に従って、アリマテヨセフとニコデモなど男たち何人かが香料(こうりょう)ともつやくでイエス様にぬって布で結構巻(ま)いたので重さだけでもおよそ100kgも超えた重さだったから常識的に考えても女一人で運ぶのも不可能でした。

しかし、イエスキリストに対する愛は不可能なことにまでチャレンジしようとしています。

今日、主を愛する者たちならば、自分がいくらを、もっているか、自分の力がどのぐらいであるかを考えません。計算しません。主が喜ば

されることなら、主が満足されることであるならば、しりぞからずに、やってみますというチャレンジするう姿こそ主を愛する者の姿ではないでしょうか。

その時、16節によみがえられたイエス様は女の名前を読んでくださいます。「マリヤ」そして、愛するイエス様の御声に自分もしらず反応しました。「ラボニ、すなわち、先生！」

初めてよみがえられた御自分の栄光の姿を信仰を強く持っていた弟子たちではなく、希望を抱いて主についていた多くの群衆でもなく、ただひたすら主を愛していたある女一人にまず見せて下さったのです。

これは同じく箴言の中でも神様が私たちに約束された言葉があります。箴言18章17節、「私を愛する者を、私は愛する、私を熱心に捜す者は、わたしをみつける。」さわがしく主をおもとめた弟子たち、多くの人々の前でより、よみがえられたイエス様は一番はじめにこのマグダラのマリヤにあって下さいました。なぜでしたか。マリヤの主に対する愛をごらんになったからなんです。一番、惨めでかよわい女でしたが、主に対する懇切な愛が復活のイエスキリストに合わされたのです。

愛するみなさん！今よみがえられた主がみんなの前に現されるんだったら、質問される言葉は何だと思いますか。

今日の本文の信仰も、望みも失っていて以前の自分のもとの生活に戻ってしまったペテロに現われて“お前は俺の弟子だったのにこのぐらしかできないのか。がっかりした！”とか、“もうお前は3度もわたしを裏切ったでしょう。その報いを与えよう！”とか、“僕が君のために今までこんなにたくさん上げたのに君はこれぐらいしかやってくれないの？”見たいに弱くなってしまった信仰に対して、裏切った行動に対して非難したり、叱ったりしませんでした。

ペテロに語りかけてくださった主の質問は何でしたか。“ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。”、“ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。”、そして17節に、イエスは三度目ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに答えました。「主よ。あなたはいっさいのことご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」

イエスキリストをいまだにも愛しているかの質問でした。三度わたしを愛しているかと質問にペテロは心を痛めました。

きっと以前自分が三度も自分の身を守るために、3度もイエスさまを知らないと最後にはイエス様を呪いながらでも裏切った自分の姿を思い出し、かぶられたからではないでしょうか。

しかし、弟子ペテロはこんな資格がない、信仰のない弱い自分ですが、心痛めながら“あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。”と答えました。イエス様にはそれで十分でした。キリストの愛があり、その愛が回復されるなら、また信仰も、望みも回復されるからです。ですから、主を愛することがすべての先であり、信仰の元にならなければなりません。

<3. よみがえられたイエスキリストは愛のお方です。:愛が先です。>

主は愛のお方です。イエス様を直接ついて行った弟子たちさえもそうであったならば、私たちもイエス様を信じて歩んでいるうちに、信仰がゆがんだ時もあるし、希望の日がきえさるような時も結構あるでしょう。しかし、その時、復活のイエス様はそれと関係なく相変わらず、私を愛して、そのご自分の愛のもとに引き寄せてくださる主の愛と恵みを考えると、もう一度力と勇気を頂いて信仰と希望に満ちた生活に変えられるのをいつも体験できると信じます。今日イスターを迎ながら、最近、みんなの信仰が揺るいでいませんか。そしたら、信仰も、希望さえも失いそうなその時にも、生きておられるイエスキリストを信頼し続けて、キリストの愛から離れないで下さい。

イエスキリストは我々をどうやって愛されましたか。ローマ人への手紙5章8節に“私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。”と言われます。イエス様は苦難も、十字架もいくらでもやめることも、避けることもできましたが、そうしませんでした。我々を愛されたゆえにそうしませんでした。神様はイエスキリストを十字架につけて殺すほどの愛をもって私たち一人一人に近づいてくださいました。

イスターの今日、その神の愛の前にもう一度覚えて出てください。すると、私たちの中で主に対する愛も、もう一度よみがえられます。使徒パウロは主の愛に関してこう言っています。ローマ人への手紙8章35-37節に“私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。艱難ですか。苦しみですか。迫害ですか。飢えですか。裸ですか。危険ですか。つるぎですか。「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちはほふれれる羊とみなされたとかいているとおりです。しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」”アーメン！

この世のなにものもキリストイエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

イエス様は信仰と希望と愛を失ったペテロにもう一度であった時、信仰と希望よります、その愛を回復させてくださいました。「ヨハネの子シモン、あなたは私を愛しますか。」愛の感激が回復されると信仰は確信にかえられ、希望は太陽より輝きます。

使徒ペテロはその後、生涯イエスキリストの愛の大天使、愛の使徒として生きました。そして、老年、遺言的な御言葉をこう残しました。

第一ペテロの手紙4章7-8節です。“万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。”

パウロもこのように告白しています。

「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番優れているのは愛です」と。自分の信仰がゆるいたり、ゆがんでいる時、希望が失われていく時、よみがえられ、今も私たちと共に生きておられるインマヌエル主の御前に近づきましょう。そして、愛を持ってたずねられた主の御前で愛をもって告白しましょう。“主よ、私があなたを愛することをあなたが御存知です。主よ。昨日より今日もっとあなたを愛します。我が力である主よ。さらにあなたを愛します。”これがイースターの朝我々信仰の告白であり、主に向かう我々の愛の告白となりますように祈ります。今日、私たちはイースター、もう一度イエス様の愛が私たちの上に豊かに溢れますように祝福し、祈ります。

<4.愛は死より強いのです。: 今も生きておられる真の救い主イエスキリストの愛をのべ伝えましょう!>

そのように死んでお墓に納められたイエス様が消えました。そしてお墓は空いています。イエス様のお墓はこんなにいたるまで空いています。

これをどうやって説明するのですか。予言通りにイエス様は再び、御体で復活されたのです。その復活のイエスを直接みて、さわって体験した弟子たちだったので、イエスの復活を大胆に述べ伝え始め、イエス様の復活後の1年間の間、エルサレムだけでイエスキリストを信じうけたユダヤ人は最低 125,000 人を超えたそうです。なぜなら一番の復活の証拠である空いたお墓は誰でも来て見られるところだったからではありませんか。イエスキリストは弟子たちに、女たちに、そして同時に 500 人以上の聖徒たちに復活されたご自分の姿を現して くださいました。そしてイエス様が天に昇られるときも 500 人以上の人々がこの光景を目撃しました。(ルカ 24:33.;50-51,第一コリント 15:6,使徒 1:9)これらの出来事は事実に違いありません。そうでなければ、これが聖書に入っているわけがないからです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!イエスの弟子たちはほぼ全員がイエスキリストの十字架の贖いの死と復活を伝えながら、殉教されました。彼らの後から今にいたるまで、およそ約 6 千 6 百万人のクリスチャンたちがキリストのために殉教されたと記録されています。かりにイエスキリストの復活が事実ではないなら、彼らはすべてを失い、何も得られたことなくこの世で一番かわいそうな人々になると思います。イエス様の復活が本当に事実ではなければこれらのこともできなかつたと信じます。しかしイエスの復活を誰かが信じるか、信じないかは関係なく歴史的にたしかな事実でした。だったので弟子たちはなんの疑いも、恐れもなく、イエスのためなら死までも喜んで受け入れることができたのです。

最後に、復活のイエス様に本当に会ってから回復された信仰と満ち溢れる希望をもって、キリストの愛に満ち溢れ、叫び知らせるマリヤの姿を忘れないで下さい。“私は、イエス様に会いましたよ。イエスキリストおっしゃったとおりによみがえられました。！”と。

“恐れや絶望、落胆に捕らえられている方々よ。よみがえられ、今も生きておられる愛の主に出てください。！”

マタイの福音書28章8節によりますと、「大喜びで、急いで墓をはなれ、弟子たちに知らせに走って行った」と書いてあります。本当にイエスキリストの十字架の死と復活を信じ、主への希望と愛をもっているのであればこのよい知らせを伝えざるを得ないと信じます。マリヤも、ペテロも、後イエス様の弟子たちみんなは主の愛に触れられ、復活の主と会ってからおお喜んで主がよみがえられたよい知らせを回りに伝えました。今日も我々がよみがえられた主のためにできることがあれば何でしょうか。

今も苦しんでいる人々に希望を失っている人々に、人生疲れて孤独な人生を過ごしている人々に、自分が愛されていることを知らない人々に、生きる希望をもっていない人々に急いで行って“もうこれから悲しむことはありませんよ！”と伝えることではないでしょうか。今日、この復活の聖日に、復活されもう一度愛をもって尋ねてこられたイエスキリストに自分の言葉で感謝し、愛の告白する時間となりますように、そして、今日からみんな立ち上がってその主の愛を全力を尽くして、喜びを持って伝える私とみなさんとなりますように主のみ名によって祝福します。アーメン！